

アサガオ

学名： *Pharbitis nil* Choisy 科名：ヒルガオ科



アサガオは熱帯アジア原産で、日本と中国で最も一般的に栽培されるヒルガオ科のつる性1年草です。古くから葉や花に改良が加えられ、多数の園芸品種があり観賞用植物として親しまれています。

日本薬局方に収載されている牽牛子（ケンゴシ）は、「ファルビチン」と呼ばれる樹脂配糖体を主成分として含みます。このファルビチンには強力な瀉下作用があり、摂取すると非常に激しい下痢を引き起こします。そのため絶対に服用量を誤らないようにして、長期連用にも注意しましょう。また、収穫したばかりの新しい種でも、時間をおいた古い種でも成分はほとんど変わらないため、お子様やペットの手の届かない場所に保管しましょう。

「牽牛子」は、古代中国において種子が牛と取引されていたことから名付けられたといわれています。当時は医学が未発達で、病気は体に入り込んだ悪霊などによるものだと考えられていました。それらを体から押し流す目的として下剤を用いていたため、強力な下剤である牽牛子はとても重宝されていました。

生薬名	牽牛子（ケンゴシ）	局方生薬
薬用部位	種子	
薬効	殺虫、利尿、鎮咳、緩下作用	
用途	浮腫、便秘などに用いられる。	



ベラドンナ

学名：*Atropa belladonna* Linne 科名：ナス科



ベラドンナはアジアからヨーロッパにかけて野生する多年生草本です。初夏の爽やかな風が吹く頃、紫褐色をしたベル状の花を咲かせます。花卉の下からは潤沢な球状の果実が見え隠れしています。また、多くの同属植物のうち、ハシリドコロやチョウセンアサガオも歴史ある薬用植物です。

ベラドンナという植物名はイタリア語でベラ（美しい）とドンナ（貴婦人）の合成語で、「美しい婦人」という意味です。ルネサンス期には、ヨーロッパの女性がベラドンナの汁を用いて、瞳を大きく美しく魅せる点眼薬として使用した事実から、ベラドンナの名になったと言われています。根から得られるアルカロイドの成分「アトロピン」は救命救急において多くの命を救っています。農薬や神経ガス（サリン）に晒された時に解毒薬として「アトロピン」を注射するなど救急時に使用されます。

一方、ベラドンナは誤って摂取してしまうと食中毒を引き起こすため取り扱いに注意が必要です。このように、「アトロピン」は危険な成分のため、先人の知恵を活かし医療の分野で活用されています。

生薬名	ベラドンナコン 局方生薬
薬用部位	根
薬効	鎮痛、鎮痙、散瞳作用
用途	鎮痛、鎮痙に用いられる。 アトロピン、スコポラミン、ベラドンナエキスの製造原料



オリーブ

学名：*Olea europaea* Linne 科名：モクセイ科



オリーブは南ヨーロッパ原産の常緑高木です。葉は長楕円形で、果実は緑から黄色、黒色の3色に変化します。古代ギリシャでは、オリーブは聖なる木とされました。古代オリンピックの勝者にはローレルあるいは、オリーブの葉で作られた冠が与えられたと言われます。実際に1896年にギリシャで開催された第1回近代オリンピックでも金メダリストにオリーブ冠が授与されています。紀元前3000年頃、すでに地中海沿岸ではオリーブが栽培されており、人々の生活に欠かせない植物になっていました。例えば、食品のように直接活用することはもちろん、果実を压榨して得られたオリーブ油は石鹼原料や傷の手当てに用いられたそうです。現在でも食用油、保湿剤などの商品に幅広く活用されています。また、オリーブ油から抽出した「オリーブオイルポリフェノール」は動脈硬化の予防を期待し、機能性表示食品として利用されています。一方で、オリーブ油は日本薬局方に収載されている脂肪油で、国の定めた基準濃度をクリアすると皮膚を保護する医薬品として扱われます。

生薬名	オリーブ油	局方脂肪油
薬用部位	果実	
薬効	なし	
用途	軟膏剤、化粧品基材、皮膚の保護剤、石鹼原料などに用いられる。	

